

正岡 さち（島根大）

【目的】近年の住宅は高気密・高断熱化が進み、室内空気汚染が大きな問題となっており、特に、住宅内にいることが多い主婦や子どもへの影響が指摘されている。住む側からすれば、住まい方にも十分な注意が必要になってきたといえよう。そこで、本研究では、乳幼児がいる家庭の室内環境に関連した住まい方について調べるとともに、住まい手の疑問点や問題点を明らかにすることを目的とし、研究を行った。

【方法】調査対象は3歳以下の乳幼児がいる家庭の保護者とし、乳幼児検診会場及び松江赤十字病院・松江生協病院において配布し、郵送により回収した。調査期間は平成11年10月上旬～11月中旬、配布数は537票、有効回収数は256票、回収率は47.6%である。調査項目は室内外の環境、掃除の実態、冷暖房器具・空気清浄機の仕様状況、子どものアレルギー疾患の状況、養育上の不安・疑問点等である。

【結果及び考察】①居間の掃除については、毎日する家庭が多かったが、子どもと一緒に過ごす時間が多く、子ども人数が多く、末子年齢が低いほど、その傾向が強かった。②子どもにアレルギーがある家庭は2割弱で、その有無によって様々な影響が認められたが、多くの場合、アレルギーが「有」より「おそらく有」と考えている人の方が多くの点に気を配っている傾向があった。③室内空気環境に対する不安・疑問点については、「ダニ・カビの害が心配」が最も多かったが、末子年齢が低いほどペットやタバコの害について不安に思っている傾向があった。